

おいしい米

2009/08/24

づくり情報

第11号

“新・米づくりやまがた日本一運動”
庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課
Tel. 0235-64-2103

もみ数は平年並～多い。

品質を高めるため、水管理を徹底しましょう！

6月以降気温が高く経過しており、出穂期は平年より4日程度早くなりました。引き続き、高温傾向で経過することが予想されことから、品質の維持、千粒重向上のため、可能な限り間断かん水や飽水管理を継続しましょう。また、出穂が早まったこと、高温で経過していることから、刈り取り適期が平年より7日程度前進する見込みです。刈り取り・乾燥調製の準備を早めに行いましょう。

● 管内の出穂の状況

出穂期は、平坦部・中山間部・山間部とも平年より4日程度早まりました。また、品種別に見ても平年より3～4日程度早く出穂しています。

出穂盛期			
平坦部	8/4 (4日早い)	はえぬき	8/4 頃
中山間部	8/4 (4日早い)	ひとめぼれ	8/5 頃
山間部	8/5 (4日早い)	つや姫	8/11 頃
		コシヒカリ	8/12 頃

● 穂数・籾数の傾向

今年は6月以降の高温で、6月下旬以降茎数が増えない状況になり、**穂数は平年並～少ない**傾向です。一方、**一穂籾数が平年より多く、㎡当たり籾数は平年並～多い**傾向です。 () 内は平年比差です。

	水田農業試験場 はえぬき	鶴岡市矢馳 はえぬき
出穂期	8/3 (-4日)	8/4 (-4日)
止葉葉数	12.9 枚(+0.1)	12.1 枚(-0.1)
㎡当たり穂数	500 本(99%)	431 本(81%)
1穂籾数	70.6 粒(112%)	71.5 粒(124%)
㎡あたり籾数	35,300 粒(111%)	30,800 粒(101%)

● 刈り取りまでの管理

(1) 間断かん水や飽水管理を継続し、品質の向上を図りましょう

高温傾向で経過しているため、白粒や胴割れ米の発生が懸念されます。今できることは、間断かん水や飽水管理の継続・徹底です。出穂後20日目頃までは、くぼみに一部水がある状態を保ち、それ以上乾かさないようにします。その後、出穂後30日目頃までは、足を踏み入れると、かかとの一部に水がにじみ出る程度にするなど、水管理の徹底を行いましょう。夜間かん水は、地温を下げる手立ての一つで、可能なところでは実践してみましょう。

(2) 出穂後30日目頃までは落水しない

今年は高温傾向が続いているため、早い落水は胴割れや千粒重の低下を招きます。出穂後30日目頃までは落水せず、可能な限り登熟を促す水管理を心掛けましょう

● 適期刈り取りで高品質米生産を

(1) 天候予報

8月20日発表の東北地方1か月予報では、向こう1か月の気温は、高い確率が70%です。引き続き、高温傾向で経過する予報なので、今後の気温の推移を注視してください。

(2) 出穂後積算気温からみた刈り取り適期

出穂後の積算気温からみた刈り取り適期のめやすは次のとおりです
(鶴岡アメダス、8/22までは実測値、8/28までは週間予報を参考に、8/29からは平年値)。

品 種	想定 出穂期	積算気温到達日					
		900℃	950℃	1,000℃	1,100℃	1,150℃	1,200℃
はえぬき	8月4日	9月8日	9月10日	9月12日	9月17日	9月20日	9月22日
ひとめぼれ	8月6日	9月11日	9月13日	9月16日	9月21日	9月23日	9月26日
つや姫 コシヒカリ	8月11日	9月17日	9月19日	9月22日	9月27日	9月30日	10月2日
	8月13日	9月20日	9月23日	9月25日	10月1日	10月4日	10月7日

(3) 高温時の刈り取りの注意！

①「刈り取り適期が早まります。刈遅れは大きく品質低下」

登熟期間が高温(出穂後30日間の平均気温25℃以上)で経過した場合、はえぬきでは積算気温900℃から刈り取りが可能になります。また、1,150℃を過ぎると光沢の低下や胴割れの増加による品質低下が大きくなります。

②「青籾歩合は高くとも、玄米は成熟しています」

平成11年度(高温年)には、登熟の推移に比べ青籾歩合の低下が遅かった現象もみられています。刈り取りの判断には青籾歩合の推移だけでなく、玄米品質を見ながら刈り取りを行いましょう。



★★ 熱中症に注意しましょう ★★

気温が高い時の農作業は避け、こまめな水分補給を！



★★ 農作業事故に注意しましょう ★★

刈り取り作業は無理のない計画でゆとりを持って！

